

## 【目次】

### 1. アーカイブ No.13

連載「日本労働会館物語」第 10 回 2010.06.01 発行の第 11 号に掲載

### 2. 出張講演 UA ゼンセン・山形県支部・山形塾 18 名

### 3. UA ゼンセン・NCCU ニチイ分会・新任役員実務研修会・解説と見学 26 名

### 4. 出張講演 UA ゼンセン流通部門・伝承塾「惟一塾」(逢見塾長)16 名

### 5. 期間限定「熊本虎三氏」の特別展示のご案内

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

### 1.アーカイブ No.13

連載「日本労働会館物語」第 10 回 2010.06.01 発行の第 11 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 10 回

#### ＜福澤諭吉とユニテリアン＞

本「物語」は日本労働会館(昭和 6 年～昭和 20 年)の「物語」であると同時に、その前身であるユニテリアン教会・惟一館(明治 27 年～昭和 6 年)、後身である総同盟本部会館(昭和 24 年～昭和 39 年)、そして現在の友愛会館・三田会館(昭和 39 年～)に関する「物語」であり、またゆかりの人々の「物語」でもありません。今回は福澤諭吉とユニテリアンの関係、友愛会との関連を紹介いたします。

参考になるのは土屋博政慶大名誉教授の『ユニテリアンと福澤諭吉』(慶應義塾大学出版会)。同書第 2 章「ユニテリアンと福澤諭吉の関わりの始まり」、第 3 章「福澤はなぜユニテリアンを支援したのか」、そして第 5 章「福澤はなぜユニテリアンの支援を止めたのか」にユニテリアンと福澤諭吉の関係が記述されています(関心のある方は前掲書をご覧ください)。また、土屋教授の日吉紀要掲載論文「アーサー・ナップと日本ユニテリアン・ミッションの始まり」には、向軍治(慶應義塾)の「先生の御考へは慶応を総合大学にして、経法文等の他に神学部を置かうとされた。その神学部にはユニテリアンを充て、芝園橋の唯一館をユニバーシティー・エクステンションとなす意思を持つて居られた」という言葉が紹介されています。

土屋教授の著作・論文からは、福澤が道德、倫理を支える宗教としてユニテリアン教に大きな期待を持っていたことが伺えますし、それ故、福澤が①ユニテリアンに惜しみない支援を行ったこと、②慶應義塾を総合大学とし、神学部を設置しようとしたこと、③その神学部にはユニテリアンを充てようとしたこと、④惟一館をユニバーシティー・エクステンションにしようとしていたことが解ります。

ところで当館は昨年(2009年)春、東京・上野で開かれた「慶應義塾大学創立150年記念—未来をひらく福澤諭吉」展に併せ、「福澤諭吉と友愛会の精神」展を開催しました。それは「未来をひらく福澤諭吉」展に欠けている福澤とユニテリアンとの関係を補い、併せて鈴木文治(友愛会創設者)が福澤の「独立自尊」に共鳴していたことや、「友愛会綱領」と「修身要領」が理念において通底していることなどを紹介するためのものでした。

そこでは①福澤が初期のユニテリアン・ミッションを支えたこと、②それ故、日本にユニテリアン・ミッションが根付き、唯一館が建設されたこと、③後に唯一館に結集したユニテリアンにより社会主義運動(安部磯雄らの社会民主党)や労働運動(鈴木文治の友愛会)がスタートしたことなどを解説しましたが、これは労働運動や社会運動に関心を持つ人々に共有されるべき歴史的事実だと思うからです。

土屋教授は「ユニテリアン・ミッションの重要な歴史的貢献」として、①ユニテリアンであった安部磯雄、村井知至、岸本能武太らが始めた社会主義研究会、②鈴木文治の設立した労働運動団体の友愛会、③仏教僧侶であった佐治實然らを受け入れ、キリスト教と他宗派に共通する普遍的な宗教を求めたこと、④そこから派生する比較宗教学を推進したこと、などを挙げています。

## 2. 1月13日(土) UA ゼンセン山形県支部・山形塾 18名

1月13日(土) UA ゼンセン・山形県支部・山形塾 18名が、講義「日本労働運動の100年余」を受講。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を90分受講した。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。

皆さんとっても熱心に受講した様子でした。

## 3. 1月20日(土) UA ゼンセン・NCCU ニチイ分会・新任役員実務研修会・解説と見学 26名

UAゼンセン・NCCU ニチイ分会・新任役員実務研修会の26名が1月20日(土)、研修会で常設展示「日本労働運動の100年余」の解説を受講。その後、友愛労働歴史館を見学した。ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など熱心に資料館を見学しました。中でも、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木

文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージなどに関心と興味を引いた様子でした。

#### 4. 出張講演 UA ゼンセン流通部門・伝承塾「惟一塾」(逢見塾長)16名

1月31日(水) UA ゼンセン・流通部門の伝承塾である惟一塾(逢見直人塾長)の16名が来館。常設展示「日本労働運動の100年余」を受講。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を90分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し見学をしていました。

#### 5. お知らせ

##### ① 期間限定「熊本虎三氏」の特別展示のご案内

**2024年2月20日(火)～2024年2月22日(水)の期間に限り、友愛労働歴史館の展示室にて公開します。**

熊本虎三氏の御子息からご寄贈いただいた胸像、他写真など数点を展示。

(経歴・wikipediaより)

[佐賀県](#)の貧しい農家に生まれる。農業学校(二部)を卒業し、[鉄道省](#)小倉工場(現[小倉総合車両センター](#))、唐津製鋼所などで勤務。1923年(大正12年)に上京し労働運動に加わる。本所鉄工場などで勤務し、[日本労働総同盟](#)に参加し労働争議の指導などを行い、検挙を多数受けている。1926年(大正15年)[社会民衆党](#)に入党し中央委員に就任。その後、[社会大衆党](#)に参加。[大島町](#)会議員、[城東区](#)会議員、[東京府](#)会議員、[東京市](#)会議員、[東京都議会](#)議員、中央公職資格審査委員、[中央労働委員会](#)委員などを務めた。

戦後、[日本社会党](#)の結党に加わり、また、総同盟([日本労働組合総同盟](#))の再建にも参画し、総同盟副会長、同東京都連合会長、同全国化学労働組合同盟副会長、同全国食品産業労働組合同盟会長などを務めた。

1946年(昭和21年)4月の[第22回衆議院議員総選挙](#)に[東京都第1区](#)から社会党公認で出馬(虎蔵名義)して落選。1947年(昭和22年)4月の[第23回総選挙](#)に[東京都第6区](#)から出馬(虎蔵名義)して次点で落選。1949年(昭和24年)1月の[第24回総選挙](#)に出馬して次点で落選。1952年(昭和27年)3月の第24回総選挙東京都第6区[補欠選挙](#)に[右派社会党](#)公認

で出馬して初当選。その後、1953年(昭和28年)4月の第26回総選挙まで再選され、衆議院議員に連続3期在任した。この間、社会党中央委員、同会計監査、同交通政策委員長などを務めた。1954年2月、議員在任中に死去した。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール [yuairedokishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairedokishikan@rodokaikan.org) HP <http://www.yuairedokishikan.com>

-----惟一館から129年、友愛会から111年-----